

# 緩和ケアセンター

## ■ スタッフ

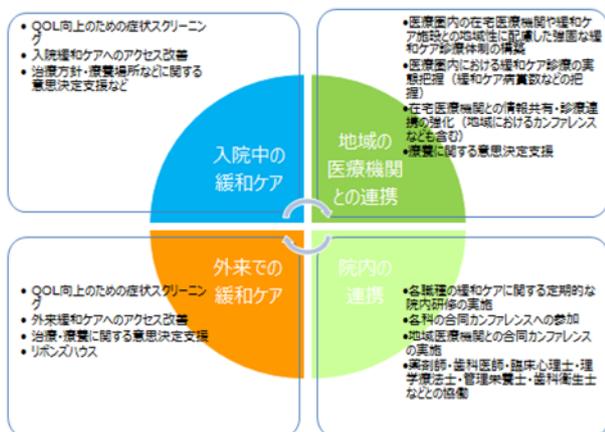
科長（センター長）		丸山 一男
医師	常勤	1名
	併任	3名
看護師	常勤1名（平成28年2月1日より3名）	
事務職員	併任	1名
	非常勤	1名

## ■ 部門の特色

緩和ケアセンターは、緩和医療・緩和ケアの教育・連携・研究の推進のため、平成26年4月1日に新規開設された。入院中の緩和ケア診療やコンサルテーション、緩和ケア外来、地域緩和ケア施設との連携など各部門で行われてきた「早期からの緩和ケア」を実践し、いつでもどこでも緩和ケアが受けられるような体制整備に取り組んでいる。

### 1. 基本理念

緩和医療・緩和ケアの専門性は、がんをはじめとする生命の危機に直面する疾患を持つ患者と家族の苦痛の緩和と療養生活の質（Quality of Life）の向上を図ることである。臓器・疾患別ではなく、患者をひとりのひととして焦点をあて「多面的かつ包括的なアセスメント」に基づいて全人的に捉える視点から「Suffering（つらさ）のマネジメント」のための診療を提供している。



緩和ケアセンターでは、以下の5項目にモットーとして診療に取り組んでいる。1) 外来・入院治療においてがん患者さんの持つこころとからだの苦痛

をスクリーニングし、対応が必要な苦痛に早期から終末期に至るまで継続的に対処すること、2) 腫瘍医の外来・入院治療を、苦痛の緩和と治療・療養に関する決定支援（患者家族が望んだ場所で適切な療養生活を送ることができること）の両面からサポートすること、3) がんの治療と並行して苦痛の緩和を行い、治療によって生じる苦痛にも対応すること、4) 年齢と性別を問わず診療を行うこと、5) 非がん疾患の緩和ケアにも積極的に取り組むこと。

### 2. 主な役割と活動

#### 1) 患者・家族への直接診療

緩和ケア専門病棟および入院病床は当院にはないため、当院でがん治療中の方や地域医療機関のかかりつけの方を対象にし、緩和ケアチームによる緩和ケア外来ならびに入院患者への対応を行っている。

#### 2) 医療者へのサポート・コンサルテーション

主科の依頼に対して、専門的緩和ケアの提供の場として入院・外来を通じて緩和ケアチームが対応し、療養先の変化によって途絶しがちなQOL向上を目指したケアを切れ目なく継続できるようにし、がんの治療と並行して苦痛の緩和を行っている。

#### 3) 緩和医療・緩和ケアの教育・啓発活動

各種の研修会・勉強会・セミナーを開催し、緩和ケアの教育活動を行っている。

- ・緩和ケア基本研修会（年2回、2日間）
- ・緩和ケアフォローアップ研修（年1回、1日）
- ・緩和ケアチーム研修会（年1回、1日）
- ・がん医療におけるコミュニケーションスキル研修（年1回、2日間）
- ・緩和ケアセミナー（年3回）
- ・早期からの緩和ケアを考える会（年1回）
- ・医療者のためのスピリチュアルケア研修（年1回）

#### 4) 地域との連携

県内各施設や地域医療施設との顔の見える関係での診療・ケア連携を行っている。

- ・中勢地域緩和ケアネットワークへの参加
- ・二次医療圏の緩和ケア関連施設（緩和ケア病棟・在宅医療施設）とのカンファレンス・症例検討会開催
- ・三重県がん診療連携拠点病院緩和ケア部会運営

#### 5) 臨床研究による緩和医療学の発展と向上

## ■ 診療体制と実績

### 1. 診療体制

緩和ケアの提供の主軸は、多職種チーム連携である。緩和ケアセンターは、患者・家族への緩和ケア提供を実践する多職種チームとして、緩和ケアチームを運営している。

緩和ケアチームには、専従医師（緩和医療学専攻）、兼任医師（腫瘍内科学専攻、麻酔科学専攻、精神腫瘍学専攻）、専従がん看護専門看護師2名（1名はジェネラルマネージャー）、専従緩和ケア認定看護師1名のほか、兼任で、緩和薬物療法認定薬剤師、臨床心理士、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー、作業療法士、理学療法士、鍼灸師がメンバーとして加わっている。メンバーは、主科担当医や担当看護師と話し合いのうえ、連携・協働して入院時のみでなく外来通院時にも必要に応じて診療・ケアを担当し、多職種チーム医療による緩和ケアの提供を継続して行っている。

定期カンファレンス(毎週月曜日午後)

緩和ケアチーム定期ラウンド(毎週月曜日午後)

<主な対応内容>

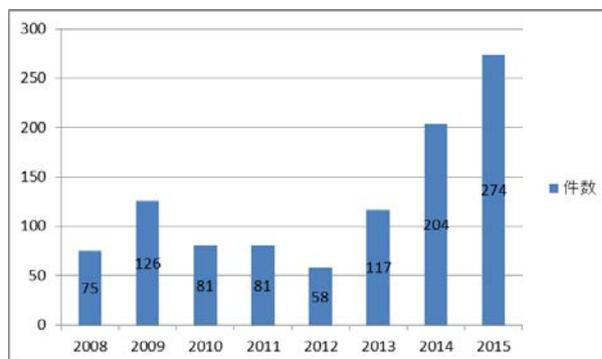
1. 身体症状(疼痛・嘔吐・呼吸困難・倦怠感など)
2. 精神症状(不眠・抑うつ・せん妄など)
3. 心理的な問題(こころのつらさ、不安など)
4. 療養場所の決定に関する支援(転院、在宅医療・緩和ケア病棟への移行など)
5. 社会制度利用のサポート(医療保険、介護保険・福祉制度など)
6. 家族ケア(遺族ケアを含む)
7. 緩和ケア領域の薬剤に関する指導や相談
8. 緩和ケア領域の食事の工夫や栄養相談

### 2. 診療実績

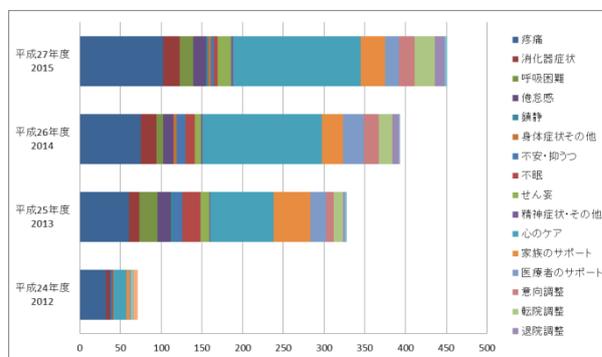
2015年度新規依頼件数は274件であり、緩和ケアチーム年間新規依頼数の推移(2008-2015年度)を見ると飛躍的に増加している(図1)。緩和ケア管理加算の取得数は安定して増加し、入院患者913件、小児20件、外来患者86件(前年度入院患者417件、小児20件、外来患者20件)であった。依頼内容(延べ451件)の内訳(図2)をみると、身体症状の緩和(145件32.1%)精神症状の緩和(27件6%)に加え、心のケア(157件34.8%)、転院退院など意向調整(59件13.1%)に関する介入が多かった。がん治療時の緩和ケアだけではなく、透析・慢性心不全・神経難

病患者の依頼も目立つようになってきたことが本年度の特徴である。

- チーム依頼件数(図1)



- 緩和ケア依頼時の内容別件数(図2)



## ■ 今後の展望

入院患者への直接診療・コンサルテーション、外来通院中の患者・家族が専門的緩和ケアを受けられるような外来コンサルテーションの体制整備、腫瘍医の診療サポート、治療や療養に関する意思決定支援などの基盤となる役割の充実を図ることが求められている。がんセンター・医療福祉支援センターなどの部門とよりより協働をし、多職種チーム連携の充実を図る。また小児がん拠点病院であることから、小児トータルケアセンターとの協働により小児科領域の緩和ケアの提供を目指す。がん医療にとどまらず、心疾患、呼吸器疾患、神経筋疾患をはじめとする非がんの緩和医療にも取り組んでいくことになると考えている。

<http://www.hosp.mie-u.ac.jp/kanwa-care/>